

白山市の移住定住に関するプロモーション活動 ～白山市の紹介動画制作と瀬波地区の冊子づくりを通して～

団体名●石川ゼミナール／代表者名●石川美澄（経済学部地域システム学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

白山市は、市全体でみれば著しく人口が減少しているわけではないが、白山ろく地域では人口減少や高齢化が進み、今後地域社会の維持が困難になることが予想されている。白山市では、移住定住促進は重要な課題として位置付けられており、これまでに様々な施策が実施されてきた。

本活動は、白山市の紹介動画制作と瀬波地区の冊子づくりという2つの活動から成り立っている。まず、企業による製品・サービスと同様に、地域の移住定住施策においても「自治体を認知してもらうこと」は重要である。しかしながら、移住関心層はもちろん、潜在的な移住関心層に白山市を認知させたり関心を持たせたりすることは容易ではない。そこで、白山市がまだ積極的に利用していないソーシャルメディアを用い、かつ新たな切り口としてテーマやターゲットを限定した映像コンテンツを制作・発信することを第一の目的とした(以下、アウター活動とする)。

また、過疎化の進む市内の集落・地区では、地域の現状を住民自身が理解したうえで、新たな地域の担い手として移住関心層や関係人口の受け入れを目指すか、現状維持のまま縮減という方向性のまちづくりを目指すかを検討する必要がある。どのような「地域の将来」を選択するかは、住民に委ねられるだろうが、一方でそのための対話のきっかけを住民自らが創出することは難しい。「よそ者」である私たちができることも非常に限られている。しかしながら、地域紹介冊子の制作というプロセスを通して、地域内での住民とよそ者のコミュニケーションの総量の向上を図ることが、「地域の将来」を考えるうえでの一つのきっかけになればと考え、第二の目的とした(以下、インナー活動とする)。

活動内容

アウター活動では、ターゲットを設定した上で、撮影場所の選定、シナリオ作り、動画撮影・編集などを行った。学生たちの感性や価値観で、流行りの縦動画や再生時間の短いショート動画に仕上げた。

インナー活動では、瀬波地区のカフェ・宿泊事業者やキャンプ場運営者へのヒアリング調査ならびに現地調査を基に、冊子『せなみさんぽ：白山市瀬波エリアと白山ろくガイド』(全8ページ)を作成した。



写真1：フィールドワークの様子



写真2：完成した冊子

成果、結果の考察

2024年3月20日現在、市内のサウナや食、祭りを題材とした動画5本と冊子が完成した。

インナー活動については、事業者へのヒアリング調査やキャンプ場利用者を対象としたアンケート調査を実施し、冊子を完成させた。

今後の課題、展望

アウター活動では、動画撮影や編集作業に時間がかかってしまい、ソーシャルメディアに投稿してその結果を分析するという過程にあまり時間を充てられなかった。プロジェクトの時間管理等に課題が残った。インナー活動についてはより多くの住民へのヒアリング調査が実施できなかった点が課題である。